

(作成例)

ア) 基本情報・アセスメント

研修	専門研修課程Ⅰ	更新研修B1	受講番号 ※受講決定通知に記載	受講決定通知記載の受講番号	氏名
----	---------	--------	--------------------	---------------	----

↑ 該当の研修名に○をつける

作成日 20●●年 4月 4日

1	基本情報(受付年月日、受付担当者、受付経路、氏名・性別・住所・電話)	受付年月日 20●●年 3月 25日 (1) 受付担当者 F (2) 受付経路 近所の人(A氏 以前母親を担当していた)と自治会長D氏が来所する (3) 氏名・性別 事例3 V氏 女性 (4) 家族状況 現在、一人暮らし。 父親は15年前に死去。母親(93歳)は認知症を患い、5年前に市内のEグループホームに入所中。1人で母を介護してきたが、母の徘徊が激しくなり、しかたなく施設に入所させる。母親の妹(90歳)も現在要介護状態で、市内の自宅で子供(従妹 70歳)に面倒を見てもらっている。 (5) 住所・電話 ○○市○○町○○-○○ TEL○○○-○○○-○○○○	7	主訴・意向	利用者の主訴や意向 ○ 本人 「自宅で愛犬のタロとのんびり暮らしたい」 「近所の人には迷惑をかけたくない」 「部屋が片づけられない。」 「お金が心配。銀行に行ったりするのが大変になってきた。」 「また、(料理・炊き込みご飯に)挑戦してみようかしら。」 「たまにはきれいな洋服を着て外に出かけて行きたいよ。」 家族や支援者の主訴や意向 ○ 従妹E夫婦 「自分の親の介護があり、自分たちだけでは支えきれない。何とかしてやりたい。」 ○ 近所A氏 「これ以上面倒見切れない。母親のいる施設に入所をさせたい」 ○ 自治会長 「関わってくれる親族が見当たらない。従妹のE氏に本人の世話を頼みたいと連絡したが、親を介護しているようで、任されても困ると言われた。施設に入った方がいい。」 「やかんの火の消し忘れも心配。そのまま放っておけない何とかしてほしい。」「最近家に顔を出す女性が本人とお金を引き下ろしているのをみた。」
2	これまでの生活と現在の状況	○ 高卒後、百貨店の惣菜屋で働いてきた。 ○ 結婚歴なく15年前に父親を亡くしてからは母親とその頃、飼い始めた老犬(タロ)と暮らしていた。 ○ 本人を小さいころから知っている近所の方が見守りを行っている。			
3	利用者の社会保障制度の利用状況	(1) 介護保険要介護認定 申請中(20●●年4月1日)、医療保険等 (2) 年金の受給状況(年金種別)、生活保護受給の有無、障害者手帳の有無 (2) その他の社会保障制度等の利用状況	8	認定情報	○ 介護保険要介護認定 申請中(20●●年4月1日)
4	現在利用している支援や社会資源の状況	○ 介護保険サービス・医療保険サービス・障害福祉サービス・自治体が提供する公的サービス、フォーマルサービス以外の生活支援サービスを含む	9	今回のアセスメントの理由	○ 今回のアセスメントに至った理由(初回、更新、区分変更、サービス変更、多滞・退所、入所、転居、その他生活・ジョイ右京の変化、居宅介護支援事業所変更等)
5	日常生活自立度(障害)	J2	6	日常生活自立度(認知症)	II a

課題分析標準項目	現在の状況(できること・できないこと)	本人・家族の思い・意向	考える視点(原因、強み、可能性、リスク)	ケアの方向性(複数の提案)	
10	健康状態 病名:アルツハイマー型認知症(今年2月に診断) 1年前程より物忘れが目立ち、半年前から身の回りの片づけや金銭管理ができなくなっている。	本人:「これ以上ボケると、ここで暮らせなくなるからね」と話す場面が見られた。	【健康状態】 原因:アルツハイマー型認知症、物忘れ 強み:支援や受診などの拒否がない。 可能性:日常生活の実態や認知症の把握・進行防止を行い、生活管理等の支援や医療的管理への支援、介護力を高めることで一人生活の継続できる可能性はある。 リスク:一人暮らしの為、日常生活の様子が分からず、必要な支援が行われず、認知症の進行が心配される。	【健康状態】 (1) 受診や服薬の管理を支援し、生活支援の導入により本人の望む一人暮らしを継続していくことを提案する。 (2) 現在支障となっている生活状況を把握し、インフォーマルな支援を得ながら、足りないところを介護サービスを利用していくことを提案する。	
11	ADL ○ 食事や排泄、移動動作といったADLは自立。 ○ 汚れたまま同じ服を着る。 ○ 風呂場はあまり使われていない様子。	本人:「私はここ(自宅)でタロ(飼い犬)とのんびり暮らしたいよ。みんなに(近所の人)に迷惑かけないから、大丈夫だよ。」 「お金のことが心配。銀行に行ったりするのが大変になってきた。」	考える視点: ①利用者の自立に向けた希望や意思を阻害している要因(原因)を明らかにする。 ②利用者が元来持っている強さ(強み)を引出す。 ③本人の強みを生かし、阻害原因を回避する方法を考える事(可能性)で本人・家族の思いや意向に沿うことができる。 ④利用者がなぜ危険(リスク)にさらされているかを、また、今後起こりうる危険性(リスク)を予測(未来予測)することで、リスクが起こる前に回避する方向性を考える事ができる。本人・家族の思いや意向に合わせたケアの方向性を考える事ができる。	ケアの方向性(複数提案): 原因・強み・可能性・リスクについて考えた上で、どのようなケアを行うと本人・家族の望む生活に近づけるかを記載。 サービスを利用する主体は利用者本人であり、サービスを選択するのも利用者自身。そのため、複数の提案を行う必要がある。	
12	IADL ○ 食事が作れなくなっている。 ○ 部屋や家の周りはゴミであふれている。 ○ 洗濯機は壊れたまま使えていない。 ○ 元同僚の知人宅で、洗濯や入浴、受診や服薬管理の支援を受けている。	本人:「また、(料理・炊き込みご飯に)挑戦してみようかしら。」 「部屋が片づけられない。」			
13	認知機能や判断能力 ○ 物忘れ、同じ話を繰り返す。 ○ 銀行の通帳を何度も失くしている。 ○ 生活管理能力(金銭管理、清潔保持、部屋の片づけ)が低下している。 ○ 薬は飲めていないことがある。	本人:「お金が心配。銀行に行ったりするのが大変になってきた。」			
14	コミュニケーションにおける理解と表出の状況 ○ 対人関係は良好。 ○ 誰にでも話しかけ、人懐っこい。 ○ いつも穏やかである。				
15	生活のリズム ○ 愛犬(タロ)をかわいがる。 ○ 幼い頃から近所との交流がある。 ○ 元同僚を頼りにしている。	本人:「たまにはきれいな洋服を着て外に出かけて行きたいよ。」			
16	排泄の状況 ○ 排泄は自立している。				
17	清潔の保持に関する状況 ○ 身体にかき傷あり。				
18	口腔内の状況 ○ 歯は丈夫ですべて残っている。				
19	食事摂取の状況 ○ 頻繁に出かけており、近所の中華店で食事をすることが多い。	本人:「食事は外で食べているから困っていない。」	【心身機能・身体構造】【活動】【参加】 原因:アルツハイマー型認知症、物忘れ、実行機能障害 強み:迷惑をかけたくないとの気持ちがある。食事は外で食べに行くことができる。料理に挑戦したいと思っている。 可能性:日常生活の実態や認知症の把握・進行防止を行い、生活管理等の支援や医療的管理への支援、介護力を高めることで一人生活の継続できる可能性はある。 リスク:認知症の進行により、徐々に一人暮らしが困難となる。生活管理能力(金銭管理、清潔保持、部屋の片づけ、掃除・洗濯、ペットの世話)が低下し、日常生活に支障が出る。	【心身機能・身体構造】【活動】【参加】 (1) 生活支援や金銭管理、受診助や服薬管理を受け、現在の状況の把握や生活を整えていくことを提案する。 (2) ヘルパー支援を受け、認知症予防も含めた調理活動を行ってみたいことを提案する。 (3) 専門職等が行う認知症予防のための取り組みに参加することを提案する。 (4) 隣近所等の支援を受け、犬の世話を自分でできる範囲で行っていく。	
20	社会との関わり ○ 物忘れ、同じ話を繰り返す。 ○ 電車やタクシーで出かけることもあったが、最近は切符が買えない、無賃乗車をしてしまう。 ○ 銀行の通帳を何度も失くしている。 ○ 生活管理能力(金銭管理、清潔保持、部屋の片づけ)が低下している。 ○ 薬は飲めていないことがある。				
21	家族等の状況 ○ 現在は介護者不在。 ○ 市内に従妹E夫婦がいる。 ○ 自分の厚生年金と母親の残している貯金を管理してきたが困難となり、元同僚が、本人の受診時の支払いや通帳を預かり、銀行の引き下しをしている。	本人:「Fさんは良くしてくれる。いろいろ気にかけて助かるよ。頼りにしている。」 従妹E夫婦:「ここ数十年、会っていない。自分の親の介護があり、自分たちだけでは支えきれない。何とかしてやりたい。」 近所A氏・B氏:「火の消し忘れが心配。庭や部屋の片づけをしてほしい。できることは手伝ってやりたい。B氏は、犬の散歩をしている。」 元同僚F夫婦:「昔からの馴染みの仕事の同僚夫婦。入浴や受診(車で送迎)、通帳を預かり、一緒に引き下ろしに行くなど支援してきたが、限界を感じている。」		【背景因子(環境因子・個人因子)】 原因:アルツハイマー型認知症、独居、介護者不在 強み:F氏の手助けがある。近所の住民が心配している。従妹E氏夫婦の協力も得られる。 可能性:日常生活の実態や認知症の把握・進行防止を行い、生活管理等の支援や医療的管理への支援、介護力を高めることで一人生活の継続できる可能性はある。 リスク:認知症の進行により、徐々に一人暮らしが困難となる。生活管理能力(金銭管理、清潔保持、部屋の片づけ)が低下し、日常生活に支障が出る。火の消し忘れによる火災が心配される。	【背景因子(環境因子・個人因子)】 (1) 専門職も加わり、本人に適した支援をチームで考え、認知症の症状の確認や情報共有、進行予防や安心して暮らせる環境の整備等を調整していく。 (2) 一部のみに支援の負担が偏らないように、個々にできることを整理し、無理のない程度に本人の生活を支える人のネットワークを構築していく。 (3) 自宅での入浴方法の検討や洗濯機を修理してもらい、洗濯ができるようにする。 (4) 隣近所等の支援を受け、ゴミの分別やゴミ出しなど生活環境を整えることを提案する。 (5) 火の消し忘れの心配がある。まずは生活状況の確認したい。
22	居住環境 ○ 庭付きの1階平屋。 ○ 普段は中が見えないように雨戸を閉めている。 ○ 片付けができず、室内には大量のゴミ(新聞紙、郵便物、汚れた衣類や犬のえさなど)がある。 ○ 庭には犬の糞尿やえさが散乱している。	本人:「1人じゃあ片付けられなくなったよ。手伝ってもらえるかね。」 自治会長D氏:「やかんが焦がっていた。火事が心配。このまま放っておけない何とかしてほしい。」 近所A氏:「久しぶりに部屋に入ったが、こんな状態だとは思ってなかった。なんとかしてやりたい。施設とか入れないのか。」			
23	その他留意すべき事項・状況 <参考> 利用者に関連して、特に留意すべき状況(虐待、経済的困窮、身寄りのない方、外国人、医療依存度が高い状況、看取り等)、その他生活に何らかの影響を及ぼす事項に関することを記入する				

青枠内の「考える視点(原因、強み、可能性、リスク)」「ケアの方向性(複数の提案)」は、
演習時に作成するため、**空欄のまま提出**

